



国連気候変動枠組み条約事務局の
顧問弁護士の方と

ドイツで環境政策を学ぶ 3度目の渡独で見た現実

法学部国際企業関係法学科2年 和田 尚也
(私立関西学院千里国際高等部)

私とドイツ

始まりは、9歳の時にアイルランドのダブリンへ父の仕事の関係で引越した。現地のジャーマン・スクールに通ったことでした。学校ではドイツ人の友達がたくさん出来、ドイツ旅行をしたり、ドイツ等のピアノコンクールに参加したり、現地のドイツ大使公邸でピアノを演奏したりと、ドイツにはたくさんの思い出があります。中学2年の時に帰国し、高校2年の時には、ドイツ連邦政府による高校生招聘事業に参加させていただき、主要都市を視察しました。その時に、環境政策に興味を持ち、再びドイツに行ってもっと環境マネジメントを学びたいと思いました。今年の3月、「やる気応援奨学金」を使わせていただき、前半2週間の語学研修、後の2週間でドイツの州政府や、市役所、そして国連の気候変動枠組み条約事務局を訪問し、環境に関するインタビューを行いました。その活動報告をさせていただきます。

ボンでの経験

ボンは人口31万人の旧西ドイツの首都で、ベートーヴェンの生家や、シューマン記念館などといった芸術家とゆかりのある、ライン川沿いののどかな

街です。

私はボンの語学学校ゲテ・インステイトゥートにおいて2週間のドイツ語研修に参加しました。印象的だったのは、ドイツ語で分からない単語は英語で補い、後で先生がその単語を訳すなど、たとえ中途半端な文法や単語であつても、間違いを恐れずにたくさん発言していくことよって、新しい単語を勉強し、文法を訂正していくライニングメソッドを実施していることでした。私は最初、発言を出来ずにいましたが、途中からは積極的に、クラスメートと同じような方法でドイツ語力を鍛えることが出来、新しい勉強法を見付けることが出来ました。同じクラスは医者や検死官、英語やスペイン語の教師など年上の方ばかりで、人生についても語っていただいたり、授業以外でも自分のためになる話を聞くことが出来ました。校外活動では、ドイツの放送局を見学したりニュース番組の収録現場を間近で見られることも出来ました。スポーツ大会にも参加し、みんなと楽しくバレーボールもしました。

関係機関の訪問

後の2週間では、出発前に日本からコンタクトを取っていた、国連の気候変動枠組み条約事務局、デュッセルルド



デュッセルドルフ市内を流れるライン川



ホーエンツォレルン橋とケルン大聖堂



エッセンにあるツォルフェライン炭鉱業遺跡
第12採掘坑

ルフにあるノルトライン・ヴェストフ
アーレン州政府、エッセン市役所、ケ
ルン市役所において環境政策に関する
インタビュを行いました。

まず初めに、国連気候変動枠組条
約事務局を訪問しました。気候変動枠
組み条約は、1992年の地球サミッ
トで議論された環境問題を解決するた
めの枠組みを設定したものです。イン
タビューでは、昨年のパリ協定の意義
について、そして環境に関する条約を
締結する上での困難な点について詳し
く勉強出来ました。印象的だったのは、
196の国が初めて1つのゴールに向
かうために足並みをそろえることが出
来たパリ協定が大成功であり、それを
massive (凄まじく)、historic (歴史
的)でtransformational (大転換)だ
ったと説明してくださいました。
次のノルトライン・ヴェストファー
レン州政府では、経済活動による汚染
によってどう市民の意識が変わったか
や、州が抱える問題点について伺いま
した。州が全額出資をしたIBAエム
シャーパークプロジェクトによる環境
の改善は、市民に「環境を保護するこ
とは結果的に自分たちの生活レベルを
向上させるものになる」という意識を
持たせた成功例でした。今は、グロー
バル市場において環境政策を実施して

いない地域にある企業等といかに競合
していくかという問題があるそうです。
利益追求の企業を説得することがいか
に大変かが分かりました。

エッセン市役所では、市民を巻き込
んだ環境政策の一例として、市民が行
った環境保護活動が市に評価されると
合計で一万欧元が賞金として与えら
れる「エッセン市民の環境賞」を挙げ
てくださいました。もともと深刻な水
空気、ゴミの問題を抱えていたこの市
も、今では欧州でもトップレベルの環
境都市となっています。

ケルン市役所では、環境政策と企業
のかかわりがいかに難しいかについて
も知りました。市の経済に大きな影響
力を持つ企業があるために、積極的な
環境保護政策を実施することが出来ま
せんでしたが、近年では役所も企業も
協力して取り組んでいるそうです。

インタビュを通じて、さまざま
ドイツの環境政策の一端を見ることが
出来、刺激を得ました。訪問した役所
からは大量の資料をいただき、またU
NFCCCでは地球の環境問題につい
て学ぶことも出来ました。これからも
っと知識を深めたいと思いました。

いつの間にか作っている「壁」

留学初日タクシーに乗った時、運転

手に難民問題についてどう考えている
かを尋ねると、その人は「難民は税金
を貪り取る厄介者だ」と、受け入れに
否定的でした。また滞在中、ケルンで
高校の時のドイツ語の教師に会うこと
が出来ました。今、先生は難民の方に
ドイツ語を教えておられるそうですが、
勉強しようという意欲がない難民が多
く、中には難民に成り済ましている人
もいるそうです。私は、日本のメデイ
アが「ドイツ人は難民に優しい」と報
道していたことを鵜呑みにしてしまし
たが、実際に現場で人々の話を聞いて、
まだまだ自分が先入観だけで物事を判
断していると思いました。この度の留
学でカルチャーショックを受けました
が、それは自分の価値観を見直す良い
機会でもありました。

今年の7月には、ミュンヘン大学の
ドイツ法、EU法を学ぶプログラムに、
中央大学代表として参加させていただ
く予定です。日本の一部の法律の基と
なったドイツ法やEU法の知識を身に
つけるだけではなく、世界中に切磋琢
磨出来る仲間を作りたいと考えていま
す。

最後になりますが、この度の私の活
動を応援してくださいました、先生方を始
めとする皆様にごの場をお借りして、
心から御礼申し上げます。